

令和 5 年 5 月 19 日現在

機関番号：32663

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2022

課題番号：18K12209

研究課題名（和文）現代北米のムスリム社会とスーフィズム 「伝統イスラーム運動」の展開から

研究課題名（英文）The Traditional Islam Trend and Sufism in the American Muslim Community

研究代表者

高橋 圭 (Takahashi, Kei)

東洋大学・文学部・助教

研究者番号：60449080

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、「伝統イスラーム運動」の米国での展開に焦点を当て、その思想・組織・活動などの全体像を明らかにしたうえで、この運動を米国におけるイスラームとスーフィズムの両者の流れに位置付けて、その評価を試みた。結論として、まず思想面では、スンナ派伝統主義を掲げつつも、アメリカの現実に対応した新たな解釈を提示していること、組織・活動面では、サードプレイスと称される新しいコミュニティを基盤とすることで、米国の主流派ムスリム社会に展開していることが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は現代におけるスーフィズムの展開を示す事例としての意義を持つと同時に、米国で少数派として暮らすムスリムの宗教実践の多様性や変容を明らかにした研究成果としても重要な意義を持つ。特に後者については、欧米に暮らすムスリムの研究は日本では立ち遅れており、また限られた研究の関心も主にホスト社会との関係に集中してきた現状がある。その点で、イスラーム研究の立場から、米国ムスリムの信仰や実践の解明を試みた本研究は、この分野の今後の研究に新たな視点を提供する意義があると考えられる。

研究成果の概要（英文）：This study focuses on the development of the “Traditional Islam Trend” in the United States and attempts to clarify its ideas, organization, and activities, and to evaluate the trend by placing it in the context of both Islam and Sufism in the United States. In conclusion, in terms of ideas, while upholding Sunni traditionalism, the trend presents new interpretations that respond to the reality of the American society; in terms of organization and activities, it has developed in mainstream American Muslim society by building on a new community called the Third Place.

研究分野：アジア・アフリカ史／宗教学／地域研究

キーワード：イスラーム スーフィズム タリーカ スーフィー教団 アメリカ 伝統主義 改宗 移民

1. 研究開始当初の背景

本研究課題の実施者(以下実施者)のももとの関心は近現代におけるスーフィズム(イスラーム神秘主義)の展開を明らかにすることにあり、特にエジプトを対象地域として、ムスリム民衆の日常生活と密接に関わりながら発展したスーフィー教団に焦点を当てて研究に取り組んできた。

一方、20世紀以降、スーフィズムがエジプトのようなムスリムが多数派を占める地域だけでなく、欧米にも展開し、欧米人の一部も惹きつけながら勢力を拡大していることが様々な研究から明らかにされている。実施者はこうしたスーフィズムのグローバルな拡大に興味を持ち、2016年より現代の米国におけるスーフィズム拡大の実態調査に取り組んできた。そして、既存の研究や実施者自身による調査からは、米国ムスリム社会ではスーフィズムが全般的に周縁に位置付けられてきたことが確認された。スーフィー教団の多くは独自のコミュニティを形成しているが、こうしたスーフィーのコミュニティが、地域の(非スーフィーの)ムスリム・コミュニティや、全米ムスリム団体の活動から排除されてきた状況、あるいは教団の側がこうした「主流派」のムスリム・コミュニティとは一線を画す活動を行ってきた状況が見られるのである。また、教団がしばしば「主流派」のコミュニティに馴染めないムスリムの受け皿としての機能を果たしているという指摘も以前からなされてきた。

他方で、近年は従来のように神秘主義的な側面を強調するのではなく、むしろイスラーム法学と並ぶスンナ派イスラームの伝統的な教義としてスーフィズムを再定義する傾向が強まっていること、またこの動きが移民第2世代や改宗者など米国生まれの若者ムスリムを惹きつけている現象が確認されている。さしあたり実施者が「伝統イスラーム運動」と呼ぶこの運動は、米国だけでなく、イギリスやカナダなどの欧米英語圏において、特に1990年代後半から盛り上がりを見せてきたことが、いくつかの先行研究によって指摘されている。教義面では、イスラームの学問伝統を重視し、スンナ派の古典法学の枠組みに沿った「伝統的な」イスラーム解釈への回帰を説く点に特徴がある。また、若者を中心に、必ずしも神秘主義を志向していない一般のムスリムの間にも支持者を広げ、主流派のムスリム社会にも浸透していることが、それまでの欧米のスーフィズムとは異なる傾向として注目される。

2. 研究の目的

本研究は、「伝統イスラーム運動」の米国での展開に焦点を当て、その思想・組織・活動などの全体像を明らかにしたうえで、この運動を米国におけるイスラームとスーフィズムの両者の流れに位置付けて、その評価を試みるものである。教義的には極めて保守的な立場を取るこの潮流が、米国で育った若者ムスリムをどのように惹きつけているのか、というのが本研究の基本的な問題意識である。

3. 研究の方法

「伝統イスラーム運動」は組織化された運動ではなく、知識人たちをつなぐネットワークとして展開している。従って、単独でこの運動を体現するような組織は存在しないが、事実上その「拠点」としての役割を担う団体やコミュニティが各地に点在している。本研究では、運動を牽引する知識人たちの思想や、拠点としての機能を果たしている団体・コミュニティに焦点を当て、その組織・ネットワーク・活動などを明らかにする作業の積み重ねから運動の全体像の把握を試みた。

まず、伝統イスラーム運動を牽引する知識人としては、ハムザ・ユースフ、ウマル・ファールーク・アブドゥッラー、アブドゥル・ハキーム・ムラード、ヌー・ハー・ミン・ケラー、ザイド・シャーキルなどが代表的な人物であり、本研究ではこれらの知識人たちの思想の分析に取り組んだ。なお彼らの思想は必ずしも書籍や論考などの形で体系的にまとめられているわけではなく、多くの場合、オンライン上の記事や講演を記録した動画などの形で発信されており、本研究でもこうした多様な媒体を広く渉猟して、その思想的な特徴の解明に取り組んだ。

次に、組織・活動については、モスクやイスラーム団体などでのフィールドワークを実施した。本研究課題の実施期間中にフィールドワークを行った「伝統イスラーム運動」系の団体としては、カリフォルニア州バークレーのザイトゥーナ・カレッジ、同州フリーモントのタアリーフ・コレクティブ・フリーモント、ヴァージニア州アレクサンドリアのメイクスペース、イリノイ州シカゴのタアリーフ・コレクティブ・シカゴを挙げることができる。中でも、実施者はタアリーフ・コレクティブ・フリーモントに注目し、研究課題期間を通じて継続的な調査を行ったほか、サンフランシスコ・ベイエリアの様々なモスクやイスラーム団体での調査も行い、この地域のムスリム・コミュニティ全体における「伝統イスラーム運動」の影響や位置づけの解明に取り組んだ。

4. 研究成果

本研究で明らかになった点と、それに関わる研究成果は以下の通りである。まず思想面については、伝統イスラーム運動を牽引する米国のムスリム知識人たちは、スンナ派の伝統的な教義の

継承者を自認しつつも、実際には現代の米国社会の現状に対応する形で、そうした教義の再解釈を行っていることが明らかになった。

この点について、実施者は特にジェンダーに関する言説の分析から、こうした知識人たちがどのような論理や戦略を駆使して再解釈を行っているのかを考察した(高橋圭「伝統と現実の狭間で 現代アメリカのスナ派新伝統主義とジェンダー言説」『ジェンダー研究』21号、2019年、133-144頁; Kei Takahashi, "Recapturing the Sunni Tradition: "Traditional Islam" and Gender in the United States," *Orient: Journal of the Society for Near Eastern Studies in Japan* 56, 2021, 91-105)。その結論は以下の通りである。

まず、伝統イスラーム運動の特徴として、スナ派の古典的な解釈だけでなく、そうした解釈を導くための学問的方法論自体も「スナ派の伝統」として重視する立場を取っていることが重要である。実際にこの運動を牽引する知識人たちの多くは中東イスラーム諸国などに留学して宗教諸学を修得しており、この事実が彼らの提示するイスラーム理解の正統性を支える役割を果たすことになる。こうした前提をもとにこれらの知識人たちは単に古典的解釈を継承するだけでなく、実際にはそれらを現代アメリカの文脈にに応じて再解釈しているが、その際には彼ら自身が宗教諸学を修得した学者(ウラマー)であるという事実によってそうした再解釈の正統性を担保しているのである。例えば同性愛をめぐる問題については、古典的解釈では同性間の性行為を禁止する規定はあるものの、そうした性的指向を持つこと自体を問う議論はないことを踏まえて、「伝統イスラーム運動」の知識人たちは再解釈によって性的指向としての同性愛は認められるという立場を取っている。

また、彼らの言説は、小論、講演、インタビューといった形式で、何かある話題や出来事があった際にそれらに対応して断片的に表現されているが、これによってスナ派の伝統教義を固定的なものとしてではなく、その時々個別の状況に応じて柔軟に再解釈しながらアメリカのムスリムに伝達する工夫もなされている。さらには、再解釈によっても越えがたい古典的解釈の規範と現代アメリカの現実との溝については、規範に従おうとする努力自体を評価するという共感的な手法も取られている。例えば、同性愛者のムスリムが、その性的指向自体は認められつつもそれを実践することは許されないという倫理的な問題については、欲望を押さえる努力自体に、ジハードといった霊的な価値を見出す言説でこれに対処しているのである。

次に、組織・活動面については、この運動においては、それまでのスーフィズムとは異なり、スーフィー教団が必ずしも活動の拠点となっていないことが最大の特徴である。伝統イスラーム運動の支持者の多くは、特定の教団には直接関わっていない。その代わり、主な活動は、明示的にはスーフィズムを掲げずに活動するコミュニティ団体を中心に展開されている。こうしたコミュニティ団体には様々なものがあり、例えばイスラーム教育を行う学校を始めとして、医療団体、元囚人の社会復帰支援団体などその形態や活動は多岐に渡る。共通しているのは、いずれもスーフィズムの修行や実践を前面に掲げる団体ではなく、一般のムスリム向けのサービスの提供を主眼としている点にある。

中でも、既存のモスクとは異なる新しいタイプのコミュニティ団体が、この運動の拠点として重要な役割を果たしていることが本研究を通じて明らかになった。モスクが一義的には礼拝のために集まる施設であるとするならば、新しいコミュニティ団体は人々が集まること自体を目的とする点に大きな特徴がある。そこでは宗教実践だけでなく、そこに集う人々のニーズを満たす様々な活動が提供され、そうした活動への参加を通じて多様な属性のムスリムが交流し、帰属意識を感じることが出来る場を生み出すことが目指されている。その組織形態や活動内容自体は個別の団体ごとに異なるが、全体としては、その出自や志向性に関わらずどんなムスリムでも歓迎される開かれた場を提供するというのが共通する基本方針となっている。

本研究では、こうした団体がスーフィー教団に代わる伝統イスラーム運動の活動拠点としての機能を果たすのみならず、より重要な点として、この運動に若者ムスリムを惹きつけ、米国ムスリム社会の主流派にスーフィズムを接合する役割も担っていると結論付けた。すなわち、あえて「伝統イスラーム運動」の教義を前面に押し出さず、多様なムスリムが参加できる場を活動の拠点とすることで、例えばスーフィズムに関心のない層を取り込むことに成功してきたとみなすことができるのである。そして、モスクとの差異化を明確にすることで、「伝統イスラーム運動」のサードプレイスは、既存の「非スーフィー系の」モスクやイスラーム団体と競合するのではなく、むしろ後者を「補完する」役割を果たすことになり、それによって主流派のムスリム・コミュニティを構成する「イスラーム団体」として市民権を得ることに成功してきたと結論付けた(高橋圭「アメリカにおける若者世代のコミュニティ形成と社会運動」長沢栄治監修・鷹木恵子編著『越境する社会運動』明石書店、2020年、150-155頁; 「多様なムスリムが触れ合う場 米国におけるスーフィー系サードプレイスの形成と変容」『宗教研究』96巻2号、2022年、103-126頁)。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 5件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 高橋 圭	4. 巻 96
2. 論文標題 多様なムスリムが触れ合う場 米国におけるスーフィー系サードプレイスの形成と変容	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 宗教研究	6. 最初と最後の頁 103～126
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20716/rsjars.96.2_103	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Kei Takahashi	4. 巻 56
2. 論文標題 Recapturing the Sunni Tradition: “Traditional Islam” and Gender in the United States	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Orient: Journal of the Society for Near Eastern Studies in Japan	6. 最初と最後の頁 91-105
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kei Takahashi	4. 巻 56
2. 論文標題 Gender and Tradition in Contemporary Islam: Introduction	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Orient: Journal of the Society for Near Eastern Studies in Japan	6. 最初と最後の頁 1-3
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋圭	4. 巻 217
2. 論文標題 米国のムスリム社会に広がるサードスペース	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Migrants Network	6. 最初と最後の頁 32-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋 圭	4. 巻 21
2. 論文標題 伝統と現実の狭間で 現代アメリカのスナ派新伝統主義とジェンダー言説	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ジェンダー研究	6. 最初と最後の頁 133-134
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高橋 圭、小野 仁美、後藤 絵美、澤井 真	4. 巻 21
2. 論文標題 現代イスラームにおける「伝統」の継承とジェンダー：序論	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ジェンダー研究	6. 最初と最後の頁 109-120
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計17件 (うち招待講演 9件 / うち国際学会 2件)

1. 発表者名 高橋 圭
2. 発表標題 アメリカのスーフィズム 組織・活動・コロナ禍での変容
3. 学会等名 ウズベキスタン国立世界言語大学講演会 (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 高橋 圭
2. 発表標題 ロカモラ氏との出会い、アメリカのムスリムについて
3. 学会等名 記念セミナー「マイノリティとして生きる アメリカのムスリムとアイデンティティ」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 高橋 圭、子島 進
2. 発表標題 2022年8月サンフランシスコ・バークレー調査報告
3. 学会等名 滞日ムスリムと多文化共生研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 高橋圭
2. 発表標題 スーフィズムから見るアメリカのイスラーム
3. 学会等名 滞日ムスリムと多文化共生研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高橋圭
2. 発表標題 アメリカでイスラームの伝統を学ぶ：スンナ派伝統主義の新たな展開
3. 学会等名 東京大学中東地域研究センター連続企画駒場中東セミナー「遺産と中東：文化・歴史・信仰の展開」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高橋圭
2. 発表標題 北米のスーフィー団体 オンラインとオフラインのはざままで
3. 学会等名 日本イスラム協会2021年度前期公開講演会「コロナ禍におけるムスリムの宗教実践」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高橋 圭
2. 発表標題 イスラモフォビアのアメリカに生きる：分断から連帯へ
3. 学会等名 上智大学研究機構イスラーム研究センター主催公開シンポジウム「ディアスポラのムスリムたち 異郷に生きて交わること」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kei Takahashi
2. 発表標題 Creating a Muslim Space in Postsecular Settings
3. 学会等名 Engaging the Contemporary 2019: The Philosophical Turn Towards Religion (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋 圭
2. 発表標題 アメリカにおけるスーフィー系コミュニティ運動の展開
3. 学会等名 日本宗教学会第78回学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋 圭
2. 発表標題 アメリカの改宗ムスリムから見るイスラームとキリスト教の共生
3. 学会等名 龍谷大学国際社会文化研究所指定研究研究会「異文化理解と多文化共生 神秘主義思想とその実践を通じたイスラームとキリスト教の共生を求めて」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋 圭
2. 発表標題 近現代における「教団」としてのタリーカ 民衆性・社会性に注目しながら
3. 学会等名 スーフイズム・聖者信仰研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋 圭
2. 発表標題 アメリカのスーフイズム その歴史と現状
3. 学会等名 イスラーム・セミナー（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋 圭
2. 発表標題 アメリカの現状：「統合」に向けた近年の取り組みから
3. 学会等名 写真展×ワークショップ：マイノリティとして生きるムスリムとアイデンティティ（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kei Takahashi
2. 発表標題 Between Norm and Practice: Neo-Traditionalist Discourses on Gender in the United States
3. 学会等名 5th World Congress for Middle Eastern Studies (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋 圭
2. 発表標題 アメリカのイスラームと神秘主義
3. 学会等名 龍谷大学国際社会文化研究所指定研究研究会「異文化理解と多文化共生 神秘主義思想とその実践を通じたイスラ ムとキリスト教の共生を求めて」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋 圭
2. 発表標題 現代アメリカにおける「伝統イスラーム」への回帰とジェンダー言説
3. 学会等名 日本中東学会第34回年次大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋 圭
2. 発表標題 多様性と正統性の狭間で アメリカの「伝統イスラーム運動」とコミュニティ形成の新たな取り組み
3. 学会等名 「開発とトランスナショナルな社会運動」第7回研究会(招待講演)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計8件

1. 著者名 長沢 栄治、岡 真理、後藤 絵美	4. 発行年 2023年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 296
3. 書名 記憶と記録にみる女性たちと百年	

1. 著者名 井上 貴也、萩 翔一、高橋 圭、子島 進	4. 発行年 2023年
2. 出版社 東洋大学アジア文化研究所	5. 総ページ数 39
3. 書名 アジア諸国の持続可能性(1) : ACRI for SDGs (1)	

1. 著者名 イスラーム文化事典編集委員会	4. 発行年 2023年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 748
3. 書名 イスラーム文化事典	

1. 著者名 ロカモラ リック、高橋 圭、後藤 絵美	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京外国語大学出版会	5. 総ページ数 104
3. 書名 マイノリティとして生きる : アメリカのムスリムとアイデンティティ	

1. 著者名 赤堀雅幸編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 上智大学イスラーム研究センター	5. 総ページ数 92
3. 書名 ディアスポラのムスリムたち : 異郷に生きて交わること	

1. 著者名 鈴木董、近藤二郎、赤堀雅幸編集代表	4. 発行年 2020年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 826
3. 書名 中東・オリエント文化事典	

1. 著者名 長沢栄治監修、鷹木恵子編著	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 249
3. 書名 越境する社会運動	

1. 著者名 高橋圭（編、部分担当）、狩野希望、池田昭光、海野典子（部分担当）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 上智大学イスラーム研究センター	5. 総ページ数 61
3. 書名 アジア・アフリカにおける諸宗教の関係の歴史と現状（2）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------